

第52回 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 全国大会
第55回 全国情緒障害教育研究協議会 全国大会

埼玉大会 (最終案内)



期 日 令和5年 7月27日(木)・28日(金)

会 場 ソニックシティ (さいたま市大宮区桜木町1-7-5 ※JR大宮駅西口より徒歩3分)
・1日目7/27(木) ホール棟 小ホール(ビル棟 4階市民ホールライブ中継)
・2日目7/28(金) ビル棟 4階市民ホール・6階会議室・9階会議室

主 催 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会
全国情緒障害教育研究会
埼玉県特別支援教育研究会

後 援 文部科学省 厚生労働省 全国都道府県教育委員会連合会 全国連合小学校長会
全日本中学校長会 全国特別支援学校長会 全国聾学校長会 全国特別支援学級
設置学校長協会 全国国公立幼稚園・こども園長会 全国特別支援教育推進連盟
全日本特別支援教育研究連盟 全日本聾教育研究会 北海道言語障害児教育研究
協議会 関東地区難聴・言語障害教育研究協議会 東海四県言語・聴覚・発達障害
児教育研究会 九州地区難聴・言語障害教育研究会 独立行政法人国立特別支援
教育総合研究所 日本吃音臨床研究会 日本吃音・流暢性障害学会 日本言語聴
覚士協会 NPO法人全国ことばを育む会 全国難聴児を持つ親の会 全国都道府
県教育長協議会 一般社団法人日本自閉症協会 全国特別支援学校知的障害教育
校長会 全国高等学校長協会 財団法人日本知的障害者福祉協会 日本自閉症ス
ペクトラム学会 埼玉県教育委員会 さいたま市教育委員会 埼玉県公立小学校
校長会 さいたま市小学校校長会 埼玉県中学校長会 さいたま市中学校長会
埼玉県特別支援学級等設置校校長会

	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30
7/27 (木)		ブロック 代表者 会議	全難言協 全国理事会						受付	全難 言協 総会	開会 行事		記念講演		基調 講演	
			全情研 全国理事会													
7/28 (金)		分科会 打合せ	受付	分科会 (実践発表・質疑応答 等)				昼食・休憩			分科会のまとめ (指導助言・協議・講義 等)				閉会 行事	

※ソニックシティでは、食事の持ち込みが原則禁止です。近隣の飲食店をご利用ください。

定 員 700名 ※1日目の受付開始は12:30です。受付順に小ホールへご案内
します。小ホールの定員を超えてしまった場合は、ビル棟4階
の市民ホールにご案内し、ライブ中継を視聴していただきます。
予めご了承ください。

第52回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会ならびに、第55回全国情緒障害教育研究協議会全国大会を埼玉県さいたま市において開催します。

本大会は、全体テーマ「^{いろどり}彩」というキーワードのもと、聴覚障害・言語障害・発達障害・情緒障害の指導支援に関わる担当者の様々な専門性や、医療や福祉との連携を含めた保幼から就労までの途切れ無い支援などの実践事例を紹介します。豊かな学びと共生社会の実現に向けた意義のある研究協議会となるよう、大会実行委員会で準備を進めて参りました。また、今日の社会情勢を踏まえ、対面参加とオンデマンド配信の視聴によるハイブリット型の研究協議会という新たな試みに挑戦した大会でもあります。

つきましては、難聴言語障害教育、発達情緒障害教育による指導支援の一層の充実と発展のため、全国各地から多数の方々のご参加をいただきたくご案内申し上げます。

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 会長 鈴木 聡（東京都世田谷区立駒沢小学校長）

全国情緒障害教育研究会 会長 小林 英忠（東京都江東区立第五砂町小学校長）

埼玉県特別支援教育研究会参与 埼玉大会実行委員長 内河 水穂子

（埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 教授）

大会主題 『^{いろどり}彩～豊かな学びと共生社会の実現を目指して～』

副 題 難言「ことばを育て、こころを育み、自己肯定感を高めるために、今できること。」
情緒「つながる、つなげる、社会の中で自己有用感を高めるために、今できること。」

大会趣旨

昨今、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標（SDGs）が掲げられています。それに対して私たちが今できることは、子どもたちの自己肯定感・自己有用感を高め、一人一人の育ちを支えていくことであると考えます。また、埼玉県のキャッチフレーズ「^{さい}彩の国」にちなみ、大会主題を「^{いろどり}彩」としました。子どもたちのありのままの姿をかけがえのない色にたとえ、多様な色が集まり「^{いろどり}彩」となることが、共生社会の実現につながるのではないかと考えたからです。さらに、今大会は全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（全難言協）と全国情緒障害教育研究会（全情研）の合同開催です。この大会に大勢の教育関係者が集い、豊かな学びとは何かを共に考え、明日の指導の充実につながることを願っています。

1日目 7月27日（木）ソニックシティ ホール棟小ホール（ビル棟4階市民ホールライブ中継）

【受付】 12:30～ ソニックシティ ホール棟 小ホール前

【全難言協総会】 13:00～13:30

【開会行事】 13:30～14:00

【記念講演】 14:15～15:30

演題：『共生社会におけるコミュニケーションのあり方ー発達障害からの示唆ー』

講師：本田 秀夫 氏（信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授）

《講師プロフィール》

信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授

信州大学附属病院子どものこころ診療部 部長

長野県発達障がい情報・支援センター センター長

1988年 東京大学医学部卒 医学博士 専門は発達精神医学

1991年～ 横浜市総合リハビリテーションセンター

約20年にわたって発達障害の人たちと家族の支援に従事

2009年4月～2010年8月 横浜市西部地域療育センター長を兼務

2011年4月 山梨県立こころの発達総合支援センター開設に伴い、同所長に就任

2014年4月 信州大学附属病院子どものこころ診療部部長

2018年4月 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室教授

2023年4月 長野県発達障がい情報・支援センター所長を兼務

日本自閉症スペクトラム学会会長 日本児童青年精神医学会理事

日本精神科診断学会理事 日本成人期発達障害臨床医学会理事

日本発達障害学会評議員 日本自閉症協会理事

《主な著書》

発達障害ー生きづらさを抱える少数派の「種族」たちー（SBクリエイティブ 東京 2018）

子どもの発達障害ー子育てで大切なこと、やってはいけないことー

（SBクリエイティブ 東京 2021）

学校の中の発達障害ー「多数派」「標準」「友達」に合わせられない子どもたちー

（SBクリエイティブ 東京 2022）

【基調講演】 15:30～16:15

演題：『通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方について』

講師：堀之内 恵司 氏（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官）

《講師プロフィール》

1989年4月 鹿児島県立鹿児島聾学校 教諭

1995年4月 鹿児島県薩摩川内市立亀山小学校 教諭

2001年4月 鹿児島県奄美市立名瀬小学校 教諭

2006年4月 鹿児島県立鹿児島聾学校 教諭

2013年4月 鹿児島県教育庁義務教育課特別支援教育係 指導主事

2016年4月 鹿児島県教育庁義務教育課特別支援教育室 指導主事

2018年4月 鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校 教頭

2021年4月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官

2日目 7月28日(金) ソニックシティ ビル棟

【受付】 9:30~10:00

4階市民ホール 401~404

6階会議室 601~604・9階会議室 906

【分科会】 10:00~16:00 (昼食休憩12:30~14:00)

実践発表・質疑応答・指導助言・協議・講義・パネルディスカッション等

※対面参加の方は、次の9つの分科会から1つ選択してください。

敬称略

【第1分科会】「聴覚障害」に関する指導・支援

コーディネーター 澤 隆史(東京学芸大学 総合教育科学系 特別支援科学講座 教授)

共生社会の形成に向けた難聴学級の取り組み
～環境調整と課題改善、組織化の3つの観点から～

奥沢 忍

(茨城県つくば市立竹園東小学校 難聴学級)

現在、難聴学級には学習環境・生活環境をどのように整えるか(環境調整)、学習方法や授業内容をどのように再構成するか(課題改善)、支援体制をどのように整えるか(組織化)の3つの課題があると捉え、個々の課題についての当学級の試みを紹介します。

中学3年間の気持ちを支える指導

～難聴中学生の自己認識を育てる、通級での取り組み～

須藤 沙弥香

(神奈川県立茅ヶ崎支援学校 総括教諭)

三橋 聡子・長谷川 ちか子

(神奈川県立平塚ろう学校 通級指導教室)

自己認識を深め、自身に必要な支援方法を選択できるために、通級指導3年間の働きかけをまとめた報告です。「わかっているけれどやりたくない」と葛藤する思春期の難聴生徒への関わりや、在籍校の難聴理解につながる取り組みの工夫などを紹介します。

【第2分科会】「構音障害」に関する指導・支援

コーディネーター 西田 立郎(言語聴覚士・元埼玉県白岡市立篠津小学校教諭)

ことばで表現することが上手なAさんから学んだ
自己肯定感を高める構音指導

春山 咲希子

(宮崎県都城市立明道小学校 言語障害通級指導教室)

情緒にも課題のある低学年のお子さんの改善指導の提案です。担当になり3年目で指導に不安を感じながらも、周りの方々に支えられ、子どもたちの姿から教えられ、ことばの先生としても成長していくことのできた実践を紹介します。

笑顔かがやく ことば・きこえの教室

東 あやの

(草加市立八幡北小学校 難聴・言語障害通級指導教室)

ことばの教室の活動を通して、児童の心が動いた瞬間を捉え、自分を肯定し笑顔になっていく様子とそれを支える保護者の姿を6人のエピソードとともに紹介します。ことばの教室、担当者だからこそできることについて皆さんと考えられたらと思います。

【第3分科会】「吃音」に関する指導・支援

コーディネーター 小林 宏明(金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授)

吃音がある子どもが幸せに生きるために
ことばの教室でできること

安田 恵美

(千葉県千葉市立山王小学校 言語障害通級指導教室)

自分らしく幸せに生きてほしいと願い日々の学習を行っています。吃音学習は子どもの行動、思考、感情に目を向けることが大事だと考え、対話に取り組みました。「吃音チェックリスト」などの学習を通して、自分や吃音と向き合う子どもたちの様子を紹介します。

開かれたことばの教室を目指して

森崎 渉

(川越市立川越小学校 難聴・言語障害通級指導教室)

吃音のある子どもたちが在籍校や社会の中でいきいきと活躍するためにと計画して取り組んだ7年間のグループ学習の記録です。「自分のことばで伝えたい」「在籍校で活躍したい」そんな児童の思いが、グループ学習を通して実現した指導実践の紹介です。

【第4分科会】「言語発達・読み書き」に関する指導・支援	
コーディネーター 海津 亜希子(明治学院大学 心理学部 教育発達学科 教授)	
発達性読み書き障害が疑われる 児童の支援 末永 絢音 (東京都練馬区立南町小学校 言語障害通級指導教室)	本教室への相談が多い「読みと書きが苦手な児童」への支援について提案いたします。アセスメントに基づいたつまずきの背景と要因の整理、在籍校との連携など、支援の上で大切に感じていることや、MIM などを活用した段階的な指導方法をご紹介します。
読む・書く・伝える 力がつき自己有用感が高まる指導 戸邊 みな子 (深谷市立上柴中学校 発達・情緒障害通級指導教室) 横田 惇 (深谷市立深谷中学校 発達・情緒障害通級指導教室)	中学生の通級指導の中心課題を整理し、3つの指導の柱「生活の質を上げる」「自己理解」「読む・書く・伝える」を、多くの指導事例を示し提案します。特に「読む・書く・伝える」は単独指導ではなく、全ての自立活動と絡めながら生徒の実感を伴う指導を行う工夫をしています。
【第5分科会】「ICT 活用」の指導実践	
コーディネーター 坂本 條樹(渋谷区教育センター特別支援教育係 共立女子大学 家政学部 児童学科講師)	
読み書き等に苦手さのある児童の指導と支援 自ら学び生きるための 教材教具としての ICT 活用 田淵 恵美子 (茨城県守谷市立守谷小学校 LD/ADHD 通級指導教室)	読み書き等に苦手さのある児童の指導を通して、教材教具としての ICT の活用、自らが学んだり、生活を向上したりするための道具としての ICT 活用について、お話しします。支援の時間経過とともにアセスメントからの支援の様子、学習成果等、深まりのある実践を紹介します。
ICT を活用した通級指導 金子 洋子 (久喜市立鷲宮小学校 発達・情緒通級指導教室)	通級指導教室での ICT 活用ということで、子どもの指導に生かす学習ツールとしての活用、在籍校担任、保護者等の連携に生かす活用と、実際に使用している Google アプリを紹介しながら、お話しします。児童の実態に合わせたアプリの数々を紹介します。
苦手があっても大丈夫！ Chromebook は僕の相棒 ～学びに積極的になれる 低学年集団の日常～ 植草 葉月 (東京都国立市立国立第二小学校 自閉症・情緒障害特別支援学級)	特別支援学級における ICT の活用について、お話しします。担任した低学年の実践事例を挙げながら、学級での様々な取り組みを紹介します。低学年の児童でも ICT を楽しみながら、学習できる実践の紹介です。
【第6分科会】「自閉症・情緒障害」に関する指導・支援	
コーディネーター 霜田 浩信(群馬大学 共同教育学部 特別支援教育講座 教授)	
自己理解の深まりと自己肯定感の高まりを目指した 自立活動の授業実践 ～各関係機関と連携した児童の実態把握と 「じこしょうかいブック」作りを通して～ 大桃 友加里 (千葉県いすみ市立東海小学校 知的障害特別支援学級)	自立活動の授業実践において、担任と各関係機関とのつながり、児童自身と友達や家族とのつながりに視点を置きながら、お話しします。授業の中で、どのような活動を取り入れると、児童が自己理解を深め、自己肯定感に高まりが見られるのか、変容していく様子が見られる実践の紹介です。
主体性を育てる『自立活動』へ！！ ～本人の夢や願いを大事にして～ 園田 力斗 (入間市立狭山小学校 特別支援教育主任コーディネーター)	一人ひとりを大切にしたい指導計画の在り方ということで、PASH や PCP の考え方に沿った「本人を中心に据えた計画作り」から、夢の実現に向けた支援の在り方、自立活動の指導について、お話しします。子どもたちの夢をどう支援するか、事例をあげた実践の紹介です。

【第7分科会】「進路・キャリア教育」に関する指導・支援 コーディネーター 名越 斉子(埼玉大学 教育学部 特別支援教育講座 教授)	
キャリア形成の基礎となる自己肯定感の高め方 高松 慶多 (東京都三鷹市立第二中学校 校内支援教室 Port247)	教室に通う中学生の進路学習を展開する上で「自己肯定感の重要性」に着目しました。「自己理解の深まり」から「自己肯定感の向上」へと促す指導プログラムとして、東京都の特別支援学級の紹介と教室愛称 Port247「マイプロ(マイプロジェクト)」の実践を中心に紹介します。
発達に偏りのある生徒の 社会参加と自立に向けて ～通級指導を受けた生徒のインタビュー調査～ 相川 賢樹 (埼玉県立特別支援学校 さいたま桜高等学園)	社会参加と自立を目指す上で小中高の連続した学びの中で「自己への気づき」「自己理解」は不可欠です。中高の通級指導を受けた卒業生にインタビュー調査を行い、キャリア教育(「基礎的・汎用能力」)の視点から内容を整理し「学校での支援の在り方」について報告します。
【第8分科会(パネルディスカッション)】「幼保～就労までの連携」-発達情緒- コーディネーター 大石 幸二(立教大学 現代心理学部 教授) 遠藤 愛(文教大学 人間科学部 准教授)	
発達のステージを支えるために「教育」「福祉」で提供できる支援活動を知っていただくことで、それぞれの立場の強みを活かした連携の方法やその時期を私たち支援者が選択でき、より強固な連携が図れると考えます。	
生涯にわたりよりよく生きるために 発達ステージを支える各機関との連携の在り方 ～教育の立場から～ 石本 直巳 (埼玉県立けやき特別支援学校 伊奈分校)	県立精神医療センター内にある学校の特別支援教育コーディネーターの立場から、復学に向けた取り組みとして重視している「子どもたちの現状に基づく授業の工夫」や「家庭や地域との連携」について報告し、よりよい医療と教育の連携のあり方について提案いたします。
生涯にわたりよりよく生きるために 発達ステージを支える各機関との連携の在り方 ～福祉の立場から～ 野崎 陽弘 (埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」 センター長)	相談支援専門員の立場と視点から、過去の連携支援の失敗からの学びを活かし、教育と「福祉」の支援の連携の在り方を考え、共通領域である「自立活動」を中心に「チーム支援」の重要性を提案いたします。
【第9分科会(パネルディスカッション)】「ことばの教室経営と他機関との連携」-難聴言語- コーディネーター 滑川 典宏(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所総括研究員 言語障害教育研究班) アドバイザー 木場 由紀子(言語聴覚士)	
「ことばの教室」が学校の中にある意味と役割について考えます。後半は医療や福祉との連携を紹介し、ことばの教室に通う子どもたちのことばとこころを育てる大人の関わりについて考えます。	
小学校のことばの教室について 福田 桂子 (さいたま市立大宮南小学校 難聴・言語障害通級指導教室)	「ことばの教室」に通う難聴児の様子や、幼保・小中学校・医療・福祉と連携しながら、子どもたちのこころを育てる教室経営について紹介します。
中学校のことばの教室について 福田 恵美子 (さいたま市立大宮南中学校 難聴・言語障害通級指導教室)	思春期の揺れる心に寄り添う中学校の「ことばの教室」のあり方について、本教室の取り組みを紹介します。
病院における言語臨床について 清水 加奈子 (埼玉県立小児医療センター 言語聴覚士)	病院という立場における言語臨床とその役割、そして「ことばの教室」との連携について紹介します。
放課後デイサービスにおける 難聴児療育について 岡田 岳歩 (児童発達支援事業所 放課後等デイサービス エント)	0才から18才までの難聴児の言語・コミュニケーションの支援を、医療や教育現場と連携しながら進める療育について紹介します。

参加費用 A コース 5,000 円 (対面参加+オンデマンド動画も見られます)

B コース 4,000 円 (オンデマンド動画配信視聴による参加)

②: オンデマンドは、1 日目の講演・2 日目の提案者の発表とコーディネーターのミニ講義動画を配信します。1 日目の講演以外は、オンデマンド配信用の実践発表動画です。当日の様子を撮影したものではありません。実践内容により動画の提供ができない分科会や個人情報に配慮した部分があります。

申込方法 チケットペイからの WEB 申込

A コース (対面参加) の申込ページ

https://www.ticketpay.jp/booking/?event_id=41063

販売期間 5 月 16 日~7 月 26 日

※情報保障 (UD トーク) をご希望の方は、

準備の都合上 6 月 10 日 (土) までにお申し込みください。

A コースは、定員になり次第
締め切らせていただきます。



A コース

B コース (オンデマンド動画配信視聴参加) の申込ページ

https://www.ticketpay.jp/booking/?event_id=41064

販売期間 5 月 16 日~8 月 27 日

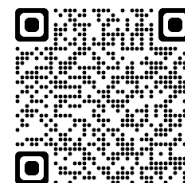
視聴期間 7 月 31 日~8 月 31 日



B コース

大会報告 大会報告書を税込み 2,000 円にて有償頒布します。WEB 申込にて受け付けます。
(全難言協の会員には機関紙「きこえとことば」、全情研の会員には「ひこばえ」にて報告します。)

大会 HP <https://fuyou.saitama-u.ac.jp/zennan/>
(埼玉県特別支援教育研究会ホームページ内)



大会ホームページは右のようなホーム画面です。
サイドバーから大会の詳細を確認してください。
大会ホームページは随時更新されます。
大会資料は、ホームページ上に PDF 化して
提供させていただきます。
参加の際は各自ダウンロードをお願いします。
大会当日の資料配付は行いません。



この会は、埼玉県教育委員会 (教特第 20-5 号)、さいたま市教育委員会 (教学特第 79 号) の承認を得ております。

【お問い合わせ先】

大会実行委員長 内河 水穂子

(埼玉大学 教授・埼玉県特別支援教育研究会 参与)

事務局長 鎌田 敏弘

(川口市立東本郷小学校 難聴・言語障害通級指導教室 担当)

【連絡先】〒334-0063 埼玉県川口市東本郷 630

電話: 048-283-8883 (直通) 048-284-8076 (学校代表)

Fax: 048-284-8749

Mail: irodori.saita2023@gmail.com

ご参加
お待ちしております。



埼玉県マスコット
「コバトン」

会場へのアクセス 1日目 ソニックシティ小ホール (ビル棟 4階市民ホールライブ中継)
2日目 ビル棟 4階市民ホール・6階会議室・9階会議室



1日目 27日(木)
総会・開会行事・講演

ソニックシティ ホール棟 (小ホール)
1日目は、小ホールが会場となります。受付順に入っていただき、参加人数が小ホールの定員を超えてしまった場合は、ビル棟4階の市民ホールにてライブ中継を行います。
講演は、オンデマンドでもご覧になれます。



JR 大宮駅西口から歩行デッキの利用なら
徒歩3分でソニックシティに到着します。



〒330-8669
さいたま市大宮区桜木町 1-7-5
詳しくは、ソニックシティ公式HPの
「アクセス」をご覧ください。



ソニックシティ ビル棟

市民ホール 401~404

会議室 601~604 906

2日目は、ビル棟の市民ホール・会議室が会場です。
4階の会議室はエスカレーターが便利です。
6・9階はエレベーターをご利用ください。

2日目 28日(金)
分科会



※ビル棟4階 市民ホール 403 404